

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車電気・電子	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	豊田 剛 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 電気の基礎知識を復習することで、1級自動車整備士の電子制御装置理解の基礎とする							
〔授業目標〕							
・国家試験、電子電気回路の計算問題が解ける							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
1級自動車整備士 エンジン電子制御装置、補助テキスト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	1	導入					
	(1)						
	1	電気の基礎 オーム、回路抵抗&計算					
	(2)	・電気の基礎復習					
	1	電気の基礎 磁気、電磁力、電磁誘導					
	(3)	・コイルとコンデンサに対する交流の特徴					
	1	電気の基礎 半導体					
	(4)	・半導体の基礎復習					
	1	電気の基礎 FET、磁気抵抗、圧電素子					
	(5)	・バイポーラトランジスタとFETの違い					

授 業 計 画 表

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車電気・電子	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01	
							開講期	前期
授 業 計 画 表								No. 2
STEP	標準時間	授業内容(項目)						
	1	電気回路						
	(6)	・断線、短絡時の各部の電圧						
	6	サーキット・テスタ						
	(12)	・サーキット・テスタの種類						
		・分圧回路、分流回路の理解						
		・サーキットテスタの電氣的性能						
		・reading、digitの関係、確度の計算						
		・基本測定技術						
		・テスタ内部抵抗を考慮した計算						
		・交流測定						
		・交流の実行値、波高値						
		・抵抗・導通・半導体の測定						
	1	オシロスコープの活用						
	(13)	・各種波形、電流制御インジェクタ						
		・電圧と時間の概念の理解						
		・トリガーの概念の理解						
		・電圧と時間の概念の理解						
		・トリガーの概念の理解						
	1	外部診断機の活用						
	(14)	・基本的な取り扱いと機能						
		・データリスト、DTCの確認						
	2	総合復習						
	(16)							
	1	期末試験						
	(17)							
	1	期末試験見直し						
	(18)							

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	新材料・新技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当		川崎 智仁(1級自動車整備士)					
実務経験教員授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級教科書「自動車新技術」に記載の新機構について理解する							
〔授業目標〕							
・1級整備士の筆記試験合格レベルの新技術に関する知識を習得する							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
1級自動車整備士 自動車新技術							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	ハイブリッド車					
		・概要、特徴、構造、機能					
	2(4)	ハイブリッド車					
		・作動、盛業、点検、整備					
	2(6)	CNG自動車(圧縮天然ガス自動車)					
		・概要、構造、機能					
	2(8)	CNG自動車(圧縮天然ガス自動車)					
		・作動、盛業、点検、整備					
	2(10)	筒内噴射式ガソリン・エンジン					
		・概要、構造、機能					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合診断技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	春日 勇太 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	24時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 単元・期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級自動車整備士として、各、センサーやアクチュエータの回路構成を理解する。							
2. 各、センサーやアクチュエータ回路の信号波形を理解し、適した測定方法を理解する。							
〔授業目標〕							
・回路構成の仕組みを理解し、理論的な診断技術を習得する。							
・外部診断機のデータ内容から故障診断が出来る技術を習得する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級 エンジン電子制御装置 SE2級ハード編							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	高度診断技術・導入					
		・概要説明					
		・基礎振り返り					
	4(6)	各回路の基本構成を確かめ、正常・異常時の信号電圧、DTCの検出などを理解する。					
		・センサ①(論理信号、リニア信号)					
		・正常・異常時の信号電圧の変化を故障診断に結び付ける。					
	4(10)	各回路の基本構成を確かめ、正常・異常時の信号電圧、DTCの検出などを理解する。					
		・センサ②(周波数信号、その他信号)					
		・正常・異常時の信号電圧の変化を故障診断に結び付ける。					
	1(11)	単元試験					
		・ここまでの範囲の試験					
	1(12)	単元試験見直し					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合診断技術	対象級	専門課程 一級自動車整備 学科(旧:一級自動車研 究開発学科 一級自動車 整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	久保 雅照(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	8時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級自動車整備士として、お客様個人の不満や、さまざまな感情に的確に対応し効果的な会話の進め方を習得すると共に問診での高度診断の方法の習得する。							
〔授業目標〕							
・サービスアドバイザーの役割、内容を知り、整備作業以外の重要なポイントを理解。							
・お客様に対する問診・作業説明・応酬話法等についての知識を理解する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
一級自動車整備士 総合診断・環境保全・安全管理							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	1(1)	サービス産業の概要					
	2(3)	自動車整備事業におけるサービスの提供					
	2(5)	自動車関連法令などの適切な運用とその活用					
	1(6)	応酬話法					
	1(7)	期末試験					
	1(8)	期末試験見直し					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	応用整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	豊田 剛 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講 義	評価方法	評価なし
〔授業概要・目的〕							
1. 電気・電子回路、部品に実際に触れ、実際の電子制御回路の理解を深める。							
〔授業目標〕							
・電子パーツ、半導体等の構造、機能、特徴を理解できる。							
・オペアンプの使い方が理解できる。							
・簡単な回路設計ができる。							
〔学習評価の基準〕							
この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。							
〔使用教科書・教材等〕							
電装品構造、PC、回路シミュレータソフト、ブレッドボード、電子パーツ、オシロスコープなど							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4(4)	電気・電子回路の基本となるオームの法則を理解する。					
		①電気・電子工作作業の注意すべき内容の説明 ②電子技術の必要性の説明 ③オームの法則の説明					
		④トランジスタを作動させる為の計算方法の説明					
	2(6)	オペアンプの理解とオペアンプを使用した三角波発振回路の原理を理解する。					
		①オペアンプ基本的作動の概要説明 ②発振回路の作動原理を説明して理解させる					
	2(8)	回路設計ソフトを使い三角波発振回路を設計設計し					
		①各抵抗、コンデンサの値設定方法を理解させる ②発振する条件をシミュレータソフトで探る。					
	2(10)	設計した回路を実際にブレッドボードで組み立てて、オシロスコープで波形を観測する。					
		①ブレッドボードの使い方 ②必要な値の抵抗を合成して作る ③設計通りに発振しない場合のオシロスコープを使った診断方法を学ぶ。					
	2(12)	ブレッドボードで試作した回路を基盤設計ソフトで基盤設計する。					
		①基盤設計の基本を理解させ、基本ルールに基づいた設計を行う。					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	応用整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	春日 勇太(一級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	36時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級シャシ電子制御装置の内容を理解し、技術の習得を行う。							
〔授業目標〕							
・AT、EPS、ABS、オートA/Cの各センサ、アクチュエータの信号波形を理解する。							
・1級シャシの各項目での仕組みを理解し、理論的な診断技術を習得する。							
・1級エンジンでのECUの働きを、CAN通信の高度故障診断技術を習得する。							
・国家1級自動車整備士の1級シャシ高度整備技術、高度故障診断を合格レベルまで理解する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級シャシ電子制御装置 1級エンジン電子制御装置							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	6(6)	一級 電子制御AT					
		・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断					
	6(12)	一級 電子制御EPS					
		・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断					
	2(14)	復習					
	1(15)	単元試験					
		ここまでの範囲の単元試験					
	1(16)	単元試験見直し					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	環境安全論(環境)	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	川崎 智仁(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級整備士の要件としての環境問題に対応できる知識を学ぶ							
〔授業目標〕							
・環境問題に対する法令を理解できる。							
・1級自動車整備士の国家試験問題内容を理解できる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
1級自動車整備士 総合診断・環境保全・安全管理							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	1(1)	自動車に関わる環境問題					
		・地球的規模、広域的、局地的問題を知る					
	1(2)	資源の有効活用、産業廃棄物処理					
		・リデュース、リユース、リサイクルの違いを知る					
	1(3)	自動車リサイクル法					
		・リサイクル法、マニフェストを知る					
	1(4)	フロン回収と破壊処理					
		・特定フロン、代替フロンの影響					
	1(5)	バッテリー処理					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 機器の構造・取扱	小教科目	機器の構造取扱い	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	春日 勇太 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	12時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 振動・騒音の測定機器の種類と使い方を学ぶ							
〔授業目標〕							
・異音診断の手法を理解し、各測定機器を使用し異音の診断を行う方法がわかる。							
・1級自動車整備士試験出題の、振動、騒音計算問題が解ける。							
・振動、騒音の種類が分かる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
1級シャシ電子制御装置							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	振動・騒音の基礎、振動の性質					
		・可聴範囲 自由振動と固有振動					
	2(4)	剛体振動と弾性振動 音(振動)のあらわし方					
		・振動強制力 デシベルの計算					
	2(6)	騒音の測定方法 ノイズ感知テスト 振動の測定方法、振動・騒音分析器					
		・サウンドスコープ 振動騒音分析器の使い方					
	2(8)	振動・騒音の計算式					
		・振動周波数の計算					
		シャシ各部の振動					
		タイヤユニフォームティとまとめ					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車検査	小教科目	自動車検査	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	川崎 智仁(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	6時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 道路運送車両方の検査基準に沿った検査業務を学ぶ。							
〔授業目標〕							
・検査機器の使い方を理解し、適切な調整が出来る。							
・検査業務の流れ、指定整備記録簿の記入方法を理解している。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
2級シャシ、法規							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4(4)	サイドスリップ・テスト					
		基準値、取り扱い方法					
		ハンドルスポーク角について					
		スピードメータ					
		40km/hでの測定、テストの見方					
		測定方法					
		ブレーキ・テスト					
		制動力の総和					
		後輪の制動力の和					
		左右制動力の差					
		駐車ブレーキの制動力					
		ヘッドライト・テスト					
		テストの取り扱い					
		すれ違い前照灯の調整					
		走行用前照灯の調整					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	学科 自動車整備に関する法規	小教科目	整備に関する法規	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
						開講期	前期
教科担当	川崎 智仁(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	10時限	授業方法	講 義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級自動車整備士試験に合格出来る法律知識の習得							
〔授業目標〕							
・1級自動は整備士試験に対応できる自動車整備に関する法規がわかる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
法令教本							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	〈道路運送車両法〉					
		自動車の分類、種類					
		自動車の登録、封印					
		職権による打刻					
		臨時運行許可証					
		自動車検査の種類					
		自動車検査証の有効期限					
		保安基準適合標章					
		限定保安基準適合標章					
		整備命令、改善命令					
		整備管理者					
		事業用自動車の種類					
		自家用自動車の種類					
		自動車分解整備事業の種類					
		認証基準					
		自動車検査員					

授 業 計 画 表

大教科目		学科 自動車整備に関する法規	小教科目	整備に関する法規	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
							開講期	前期
授 業 計 画 表								No. 2
STEP	標準時間	授業内容(項目)						
	2(4)	整備主任者						
		分解整備の定義						
		日常点検整備基準						
		定期点検整備基準						
		事業用別表3						
		貨物用別表4						
		二輪用別表5						
		乗用 別表6						
	2(6)	<保安基準>						
		自動車の寸法、排気量						
		重量、軸重、輪荷重						
		自動車の転覆角度						
		最小回転半径、タイヤの溝						
		操作装置、燃料タンク						
		高圧ガスの燃料装置						
		制動装置、リヤオーバハング						
		巻き込み防止装置、突入防止装置						
	2(8)	座席、前方視界、前照灯						
		車幅灯、前部霧灯、方向指示器						
		非常点滅表示灯、側方灯						
		側方反射器、尾灯、制動灯						
		補助制動灯、後部霧灯、番号灯						
		後部反射器、速度計、排気ガス						
		騒音、後写鏡、非常信号用具						
		窓ガラス、警音器、サイレン						
		非常口、消火器						
		最近改正された法令						
	1(9)	期末試験						
	1(10)	期末試験見直し						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	久保 雅照(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	64時限	授業方法	講 義	評価方法	実習試験
レポート評価							
〔授業概要・目的〕							
1. 1級教科書「エンジン電子制御装置」に記載の内容について理解し、技術を学ぶ。							
電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断							
〔授業目標〕							
・電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断の仕組みを実物で理解する。							
・オシロスコープ、外部診断機を活用し、測定ができる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級自動車整備士 エンジン電子制御装置							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4(4)	センサ回路の確認・点検1					
		・導入、機器取り扱い オシロスコープの取扱 HDSの取扱 スイッチボックスの取扱					
	4(8)	センサ回路の確認・点検2					
		・ECU電源 論理信号センサ 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(12)	センサ回路の確認・点検3					
		・リニア信号センサ① 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(16)	センサ回路の確認・点検4					
		・リニア信号センサ② 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					

授 業 計 画 表

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
					開講期	前期	
授 業 計 画 表							No. 2
STEP	標準時間	授業内容(項目)					
	4(20)	センサ回路の確認・点検5					
		・周波数信号センサ① 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(24)	センサ回路の確認・点検6					
		・周波数信号センサ② 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(28)	センサ回路の確認・点検7					
		・その他のセンサ 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(32)	センサまとめ					
		・これまでのセンサについてまとめ、総合復習を行う。					
	4(36)	アクチュエータ回路の確認・点検1					
		・スイッチング駆動アクチュエータ① 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(40)	アクチュエータ回路の確認・点検2					
		・スイッチング駆動アクチュエータ② 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(44)	アクチュエータ回路の確認・点検3					
		・スイッチング駆動アクチュエータ③ 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
	4(48)	アクチュエータ回路の確認・点検4					
		・スイッチング駆動アクチュエータ④ 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	故障診断	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	久保 雅照(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	40時限	授業方法	講 義	評価方法	実習試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
1. 1級教科書「シャシ電子制御装置」に記載の内容について理解し、技術を学ぶ。							
電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断							
〔授業目標〕							
・電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断の仕組みを実物で理解する。							
・オシロスコープ、外部診断機を活用し、測定ができる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級自動車整備士 シャシ電子制御装置							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	8(8)	シャシ電子制御AT					
		センサ回路の測定・故障診断					
		アクチュエータ回路の測定・故障診断					
	8(16)	シャシ電子制御EPS					
		センサ回路の測定・故障診断					
		アクチュエータ回路の測定・故障診断					
	4(20)	見直し					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	応用整備実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	豊田 剛(一級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	36時限	授業方法	講義	評価方法	実習試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
1. 一般整備作業を通じ技術力、スピード力を身に付ける。							
〔授業目標〕							
・パーツリスト指示工数以内での、確実な整備作業を行える。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
各車両サービスマニュアル等							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4(4)	実習導入					
	4(8)	一般整備作業① 内装取り外し					
	4(12)	一般整備作業② 内装組み付け					
	4(16)	一般整備作業③ サスペンション、ブレーキ分解					
	4(20)	一般整備作業④ サスペンション、ブレーキ組み付け					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	応用整備実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	豊田 剛 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	44時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
1. 一般整備作業をを通じ技術力、スピード力を身に付ける。							
〔授業目標〕							
・パーツリスト指示工数以内での、確実な整備作業を行える。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4(4)	一般整備作業①					
		デファレンシャルの脱着と調整					
	4(8)	一般整備作業②					
		ストラット、リヤビーム脱着					
	4(12)	一般整備作業③					
		排気システムの全脱着					
	4(16)	一般整備作業④					
		ターボシステムの脱着					
	16(32)	一般整備作業⑤					
		分解組み立てから性能確認					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車検査作業	小教科目	自動車検査	対象級	専門課程 一級自動車整備学科(旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース)3年	作成月日	22/04/01
教科担当	豊田 剛(一級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	12時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験
〔授業概要・目的〕							
1. 検査業務の流れ、機器の取り扱いを身に付ける。							
〔授業目標〕							
・検査機器を使い、1人で継続検査の検査作業ができる。							
・道路運送車両方の検査基準に沿った検査業務、判断、調整が出来る。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
2級シャシ、法規							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	サイドスリップ・テスト	基準値				
		測定方法、調整方法	各調整方法、要領の習得				
		ハンドルスポーク角の調整方法					
	2(4)	ヘッドライト・テスト	基準値				
		2・4灯式ヘッドライトの調整	各調整方法、要領の習得				
		(下向き)エルボ一点の調整	各テストの取り扱い習得				
		(上向き)最高光度点の調整					
	2(6)	スピードメータ	基準値				
		40km/hでの測定、テストの見方	測定の方法				
		ブレーキ・テスト	判定基準、計算方法				
		測定値からの合否判定	切捨て、切り上げ				

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 サービスマネジ メント	小教科目	サービスマネジメント I	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	宇賀広章(一級自動車整備士)、春日 勇太(一級自動車整備士)、豊田 剛(一級自動車整備士)、久保 雅照(一級自動車整備士)、川崎 智仁(一級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	講 義	評価方法	実習試験
〔授業概要・目的〕							
1. サービスフロントとして必要なフロント業務の技術、知識を身につける							
〔授業目標〕							
・eディーラーの基本操作が出来る(実習確認)							
・損害保険、自動車単位の資格取得							
・セーフティーローダーの操作ができる(特別教育)							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
損害保険募集人、自動車単位テキスト、巻上げ機特別教育テキスト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	6(6)	導入・販社でのe-Dealer活用					
		EPC連携・納品請求書発行					
		メニューコードと見積もり					
		社内伝票					
		保証伝票と外注原価伝票					
		各種伝票作成の練習					
	2(8)	e-Dealer実習確認試験					
	8(16)	損害保険募集人・自動車単位研修					
	8(24)	実習導入					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	実習 サービスマネジメント	小教科目	サービスマネジメントⅠ	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	宇賀広章(一級自動車整備士)、春日 勇太(一級自動車整備士)、豊田 剛(一級自動車整備士)、久保 雅照(一級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	32時限	授業方法	実習・実打	評価方法	評価なし
〔授業概要・目的〕							
1. 振動・騒音の診断技術を習得し、適切な問診につなげる。							
2. 一級技術コンクールの企画、準備、運営を行う。							
〔授業目標〕							
・校内技術コンクールへ参加する							
・巻き上げ機の使い方を習得する							
・ノイズキャッチャー、オシロスコープ、振動・騒音分析器を使用して振動・騒音の診断が出来ること							
〔学習評価の基準〕							
この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	8(8)	校内技術コンクールの練習、参加					
	4(12)	巻き上げ機講習					
	2(14)	振動・騒音(ボディ振動の診断、振動・騒音分析器)					
	2(16)	課題研究発表					
	2(18)	講話、発表					
	14(32)	実習導入					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	経営概論	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	宇賀 広章 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講 義	評価方法	レポート評価
〔授業概要・目的〕							
1. TQMの考え方を知り、仕事の進め方の基本を修得する							
〔授業目標〕							
・PDCA(DST-PDCA)の基本を理解する							
・QCストーリーを実践することにより問題解決手法を理解する							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5: 特に成績優秀なもの 4: 成績良のもの 3: 成績普通のもの 2: 成績やや劣るもの 1: 成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5: 90 ~ 100点 4: 75 ~ 89点 3: 60 ~ 74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5: 非常に優れている 4: 優れている 3: 普通 2: やや劣る 1: 劣る(再提出の必要がある)							
Honda品質管理教育 Jコーステキスト							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	TQMの基本					
		・TQMとは					
	2(4)	QCストーリーの理解					
		・DST-PDCAサイクル					
	8(12)	問題解決手法の実践					
		・学校内の改善活動					
	2(14)	中間報告会					
		・これまでの活動状況報告					
	2(16)	QCストーリーのまとめ					
		・プレゼンテーション資料仕上げとプレゼン練習					
	2(18)	QC発表会					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧:一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	外部講師、宇賀広章 (1級自動車整備士)、春日 勇太 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	18時限	授業方法	講 義	評価方法	評価なし
〔授業概要・目的〕							
1. 1級自動車整備士として、お客様への接遇や、会話の進めるための一般常識、商品知識等を学ぶ							
〔授業目標〕							
・接遇マナー、一般常識を理解している。							
・HCで取り扱う商品について、お客様に正しいアドバイスが出来る(オイル、ケミカル、保険)							
〔学習評価の基準〕							
この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授 業 内 容 (項 目)					
	2(2)	損保講座	お客様にアドバイスできる 損害保険知識の習得				
	4(6)	ケミカル講座	お客様にアドバイスできる ホンダアクセス製ケミカルの 商品知識、施工技術習得				
	2(8)	オイル、油脂講座	お客様にアドバイスできる ホンダカーズ取扱いオイル 油脂の商品、性能知識習得				
	4(12)	接遇マナー研修	社会人としての接遇マナー 習得				
	6(18)	ITSS(Innovative Thinking System for Students) 革新的思考能力向上講座	新しい考え方、アイデアを創り出す 「革新的行動」がとれる人材の育成				

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

大教科目	一般	小教科目	情報処理実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 (旧: 一級自動車研究開発学科 一級自動車整備士コース) 3年	作成月日	22/04/01
教科担当	宇賀広章 (1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講 義	評価方法	レポート評価
〔授業概要・目的〕							
1.マイクロソフトオフィスの基本操作を学ぶ							
〔授業目標〕							
・ワードを使用し、文書書類の作成が出来る。							
・エクセルを使用し、簡単な表計算とグラフ作成ができる。							
・パワーポイントを使用し、発表プレゼンテーション資料を作成できる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2(2)	ソフトインストール、設定					
	4(6)	PowerPoint基本、発表資料作成					
	6(8)	PowerPoint発表					
	4(12)	エクセル基本操作 表計算、エクセル関数、グラフ作成					
	4(16)	PowerPoint応用 Excelのグラフ、表、関数、PowerPointのアニメーションを活用し発表資料作成					
	2(18)	PowerPoint発表					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車概論	科目	自動車概論Ⅱ	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
						開講期	前期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	44時限	授業方法	講 義	評価方法	期末試験
〔授業概要・目的〕							
1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャーシ電子制御装置 ・自動車新技術 ・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材の内容を復習、理解を深める							
〔授業の到達目標〕							
1級小型自動車整備士、筆記試験合格レベルの知識を習得する							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験がある一級資格者の教員が、実車での実例や現場での環境対策や法令について、 実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャーシ電子制御装置 ・自動車新技術 ・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材(日本自動車整備振興会連合会)							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4	自動車概論基礎項目(計算)確認					
	4	エンジン電子制御装置(電気回路、診断装置、センサ、アクチュエータ、CAN通信、ECUの制御) 復習					
	(8)						
	4	エンジン系新技術(HEV、CNG、筒内噴射、コモン・レール) 復習					
	(12)						
	8	シャシ電子制御装置(AT、EPS、ABS、AC、振動・騒音) 復習					
	(20)						
	4	シャシ系新技術(CVT、車両安定制御装置、SRS) 復習					
	(24)						
	4	エンジン系故障診断(センサ、アクチュエータ、CAN通信) 復習					
	(28)						
	4	シャシ系故障診断(AT、EPS、ABS、AC、振動・騒音) 復習					
	(32)						
	4	環境保全・安全管理 復習					
	(36)						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	学科 自動車概論	科目	自動車概論Ⅱ	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	21/04/01
						開講期	後期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善(1級自動車整備士)、田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	30時限	授業方法	講 義	評価方法	期末試験
〔授業概要・目的〕							
模擬試験を実施し、試験後の見直しを通じて1級教科書 の内容を理解する							
〔授業の到達目標〕							
1級小型自動車整備士、筆記試験合格レベルの知識を習得する							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験がある一級資格者の教員が、実車での実例や現場での環境対策や法令について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
実力確認テスト問題							
1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャーシ電子制御装置 ・自動車新技術							
・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材(日本自動車整備振興会連合会)							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	2	実力確認試験① 見直し確認					
	2	実力確認試験② 見直し確認					
	(4)						
	2	実力確認試験③ 見直し確認					
	(6)						
	2	実力確認試験④ 見直し確認					
	(8)						
	2	実力確認試験⑤ 見直し確認					
	(10)						
	2	実力確認試験⑥ 見直し確認					
	(12)						
	2	実力確認試験⑦ 見直し確認					
	(14)						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	専門実習	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
						開講期	後期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善(1級自動車整備士)、田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	124時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験
〔授業概要・目的〕							
問診手法、引渡し手法を習得し、故障診断対応力を身につける							
〔授業の到達目標〕							
登録試験(口述試験)合格レベルで問診・引渡し説明ができること							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験がある一級資格者の教員が、接遇対応力について							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
総合診断・環境保全・安全管理、法令教材 (日本自動車整備振興会連合会)							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	8	口述練習① 「車の前の方から音が聞こえる」という訴え事項に対する、問診手法を習得する					
	8	口述練習② 「マフラーから煙が出る」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(16)						
	8	口述練習③ 「エンジン調子悪い、ランプ点灯」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(24)						
	8	口述練習④ 「時々ハンドルが重くなる」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(32)						
	8	口述練習⑤ 「後退灯が点灯しない」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(40)						
	8	口述練習⑥ 「TRC点滅」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(48)						
	8	口述練習⑦ 「走行中に振動が発生する」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(56)						
	8	口述練習⑧ 「エアコン効き悪い」という訴えに対する、問診手法を習得する					
	(64)						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	応用実習	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
						開講期	前期
教科担当	田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	40時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験
〔授業概要・目的〕							
1. 点検整備、一般整備、重整備作業を行う							
2. 電子マニュアルの操作を習得する							
3. e-Dealerの基本操作を習得する							
〔授業の到達目標〕							
1. 販社でも通用するレベルの点検整備、一般整備、重整備作業ができること							
2. 電子マニュアルを操作し整備作業の手順、作業時間を確認できること							
3. e-Dealerによる修理伝票の発行、整備説明が出来ること							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
電子サービスマニュアル、e-Dealerシステム							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4	24ヶ月点検整備①(ステップ・ワゴン)	エンジンオイル交換、ワイパーラバー交換				
		e-Dealerの活用	前後ブレーキ分解内部部品の洗浄組立				
	4	24ヶ月点検整備②(シビック)	エンジンオイル交換、ワイパーラバー交換				
	(8)	e-Dealerの活用	前後ブレーキ分解内部部品の洗浄組立				
	4	24ヶ月点検整備③(N-BOX)	エンジンオイル交換、ワイパーラバー交換				
	(12)	e-Dealerの活用	前後ブレーキ分解内部部品の洗浄組立				
	4	24ヶ月点検整備④(インサイト)	エンジンオイル交換、ワイパーラバー交換				
	(16)	e-Dealerの活用	タイヤ組み替え、ホイールバランス調整				
	4	24ヶ月点検整備⑤(ステップワゴン)	指定センサ類脱着作業				
	(20)	e-Dealerの活用	ブレーキフルード交換				
	4	24ヶ月点検整備⑥(シビック)	ドアガラス交換、ドアミラー交換				
	(24)	e-Dealerの活用	レーダ・エーミング作業				
	4	12ヶ月点検整備①(ステップワゴン、シビック、インサイト)					
	(28)	総合診断問題					
	4	12ヶ月点検整備②(ステップワゴン、シビック、インサイト)					
	(32)	CVT(単品)分解組立					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
						開講期	前期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善(1級自動車整備士)、田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	92時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験
〔授業概要・目的〕							
1. 軽作業から重作業まで実際に現場で想定される整備技術の習得							
2. オシロスコープやサーキット・テスタを活用した診断方法の習得(交流波形の測定、コイル・コンデンサの測定)							
3. 実車によるHDSの習得							
〔授業の到達目標〕							
1. 構造を確認し効率の良い作業が出来ること							
2. ドライブレコーダーの取り付け方法を理解する							
3. コイル(インダクタンス、リアクタンスを理解する)、コンデンサ(容量計算ができること)							
4. HDS(外部診断機)を使用しセンサ、アクチュエータの電圧が確認できること							
5. 真の実効値、平均値実効値方式のテスタの理解、使い分けが出来ること							
6. オシロスコープによる交流波形測定を習得するオシロスコープを操作し交流波形が測定できること							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
電子マニュアル、オシロスコープ、サーキットテスタ、HDS 他							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	4	ドア・アウトサイドハンドル脱着 シート表皮脱着(CR-Z)					
	4	足回り部品脱着(ステップワゴン)					
	(8)						
	8	エアコン部品脱着(シビック)					
	(16)						
	8	エンジン脱着(N-ONE)					
	(24)						
	8	シリンダ・ヘッド脱着(オデッセイ)					
	(32)						
	8	デュアルアクシスストラット脱着(シビックType-R)					
	(40)						

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
						開講期	後期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善(1級自動車整備士)、田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	該当	総時限	56時限	授業方法	実習・ 実技	評価方法	実習試験
〔授業概要・目的〕							
1. 実車にて故障作成							
2. オシロスコープによる各信号確認手法を習得する							
3. e-Dealerを活用しながら点検整備をする							
4. ホンダSE2級を取得するための実習を行う							
〔授業の到達目標〕							
1. 故障コードなしの電気回路・機械的故障の作成が出来、問診からの故障絞込み、テスト活用による故障診断が出来ること							
2. オシロスコープを操作し各信号波形が測定できること							
3. e-Dealerを活用し販社と同様の作業が出来ること							
4. SE2級合格レベルの車両確認、故障診断が出来ること							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
電子サービスマニュアル、SE2級テキスト(ハード編) 他							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	8	インストルメントパネル脱着(レジェンド)					
	8	電装系装備の構造理解	オシロスコープによる信号確認				
	(16)	先進技術の構造・システムの理解(PPIによる資料作成法の理解)					
	4	点検整備①	実践に則した点検整備実習				
	(20)	e-Dealerの活用					
	4	点検整備②	実践に則した点検整備実習				
	(24)	e-Dealerの活用					
	16	実車故障作成	故障コードなしの電気回路故障				
	(40)	機械的故障の作成					
		⇒実車故障診断	問診からの故障絞込み手法の習得				
			テスト活用による故障診断手法の習得				
	16	SE2級実習	SE2級テキストに則した				
	(56)	車両確認、故障診断手法の習得					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 体験実習	科目	体験実習(企業実習)	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善(1級自動車整備士)、田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	120時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価
〔授業概要・目的〕							
・整備工場等の実務を経験することで、学校では得難い経験を得る							
・一級自動車整備士に必要な要件、実践力を身につける							
〔授業の到達目標〕							
組織、各部門とのつながり、実際の作業の流れを理解する							
CS活動の実際の取り組み方を確認する							
接客対応、顧客管理方法、顧客へのアクセス方法を実際のお店(現場)にて理解する							
作業安全への取り組み、効率的な作業方法、について販社の現場にて体験する							
実整備作業を体験することで実践力、応用力を高める							
環境への配慮について販社の現場にて体験する							
報告・連絡・相談の実践							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
		インターンシップ事前説明 (実習日程変更があった場合、緊急対応など)					
		インターンシップ課題設定、課題発表 (各自、実習先での課題を設定し、終了後に自己評価を行う)					
	120	インターンシップ(企業実習) 4月上旬:1日間、6月中旬から30日間程度					
		実習内容: 実習先企業の実習内容に準ずる					
		実習時間: 実習先修業時間とする					
		インターンシップ期間中、1級担当講師が実習先を訪問し実習内容を確認する					

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	一般	科目	営業実務	対象級	専門課程 一級自動車 研究開発学科 一級自 動車整備士コース4年	作成月日	22/04/01
						開講期	後期
教科担当	沖田健二(1級自動車整備士)、大塚光善(1級自動車整備士)、田中 満広(1級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	25時限	授業方法	講 義	評価方法	レポート評価
〔授業概要・目的〕							
1. 研究科技術コンクール運営：3年生が選手として参加する技術コンクールの準備・運営(問題作成、進行)をする							
2. Gr. 討議：世の中のタイムリーな話題や各自興味があるテーマについて討議する							
3. 登録試験準備：登録試験キックオフ							
〔授業の到達目標〕							
1. 技術コンクールの準備・運営を通じて各自担当業務に責任を持ちチームワークの大切さを経験しコンクールを完結させる							
2. あるテーマに対し様々な意見を聞き、受入れることで相互理解を深め、まとめることができること							
3. 登録試験に向けた準備を図る							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
サービス人材育成課準備テキスト							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
	8	研究科技術コンクール運営					
		コンクール運営準備(問題など)					
	4	コンクール実施					
	(12)						
	6	Gr討議(討議テーマは都度選出)					
	(18)	コンクール運営準備(問題など)					
	2	まとめ、発表					
	(20)						
	1	登録試験準備					
	(21)						
	4	登録試験準備:口述資料作成					
	(25)						

